



# 平安だより

世田谷平安教会付属平安幼稚園  
2018年4月号

## ご入園、ご進級、おめでとうございます

牧師・園長 長村亮介

「何でもみんなで分け合うこと。  
ずるをしないこと。  
人をぶたないこと。

使ったものはかならずもとのところに戻すこと。  
ちらかしたら自分で後片付けをすること。  
人のものに手を出さないこと。

誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。  
食事の前には手を洗うこと。

トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。  
焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい。

釣り合いの取れた生活をするこゝろ――毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして、少し働くこと。  
毎日かならず昼寝をすること。

おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。  
不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。発砲スチロールのカップにまいた小さな種のことを忘れないように。

種から芽が出て、根が伸びて、草花が育つ。どうしてそんなことが起きるのか、本当のことは誰も知らない。でも、人間だっておなじだ。

金魚も、ハムスターも、二十日鼠も発砲スチロールのカップにまいた小さな種さえも、いつかは死ぬ。人間も死から逃れることはできない。

ディックとジェーンを主人公にした子供の本で最初に覚えた言葉を思いだそう。何よりも大切な意味をもつ言葉。『見てくらん』

『人生に必要な知恵はすべて 幼稚園の砂場で学んだ』

ロバート・フルガム

「人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていないことはないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場に埋まっていたのである。わたしはそこで何を学んだらうか。」と前置きをして、フルガムは上にご紹介した言葉を続けています。子どもたちにとつて一番大切なこととは何かと彼に問えば、「それは純真な心」と言うのではないでしょう。大人が知っていることと済ませてしまうことを、子どもたちは新鮮な気持ちでまっすぐに見て、そこに発見を見出すことができます。草花の成長にも、園庭のアリやダンゴムシにも、子どもたちはたくさんの不思議を見つけ出します。その中には、自分の気持ちだけで生きているのではない、世界にはいろいろなものがあることや、またお友だちといっしょに過ごすと人間界の不思議にも出会うことでしょう。本当の出会いには、いつも発見があります。お友だちには平安幼稚園という砂場で、いろいろな発見をしてほしいと思います。そして、そのひとつひとつがお友だちにとって、神さまの恵み豊かな祝福の時となりますように、心よりお祈り致します。